

## 東京 IPO 特別コラム

2020年12月2日 Vol.169

### 令和2年師走のIPOは一挙に26銘柄

新型コロナショックに揺れた令和2年の株式相場は米大統領選の決着が見えない中で引き続き意外なほど強い展開が続いている。NYダウが3万ドル台乗せを演じる一方、日経平均も2万7000円台乗せが目前に迫りつつある。師走を迎えて2日目の本日も高値警戒感が出てはいるが、日経平均に限っては年初来高値更新の動きが見られ、この勢いを背景に循環物色が継続。2018年の高値更新にはまだ間があるTOPIXや東証2部、JASDAQなども先高観が醸成され高値更新に向かいつつある。

こうした中で令和2年師走のIPO銘柄数は一挙に26となり、15日から29日にかけて2週間で賑やかな売買がなされることとなった。11月30日に再上場を果たしたネットワークセキュリティ機器を手掛けるバリオセキュア(4494・東証2部)が公開価格2250円に対して初値2150円と初値が公開価格を下回り、その後も2000円割れを演じていることもあってやや需給面が悪化しているのではとの懸念も出てきそうだが、基本的にはマザーズ銘柄を中心に放出株が少ない好需給銘柄には投資家の関心が向かうと見たい。

26銘柄のうちマザーズ銘柄がエンゲージプラットフォーム開発のスタメン(4019・15日)や家電の企画販売のバルミュダ(6612・16日)など18銘柄と圧倒的な数となっている。今回は少し変わった社名で、インターネット利用の住設機器販売会社の交換できるくん(7695・23日)やSaaS型アルゴリズム提供のかっこ(4166・17日)、EC総合支援サイトのいつも(7694・21日)などが含まれるほか、コロナ禍で一度上場を取りやめたFast Fitness Japan(7092・16日)も改めてのIPOにこぎつけたようだ。JASDAQ銘柄は美容商品、トイレタリー商品の企画販売事業を展開するリベルタ(4935・17日)や市場・技術動向調査のグローバルインフォメーション(4171・24日)、歯科向け総合システムの東和ハイシステム(4172・25日)の3銘柄、また東証2部銘柄は生活物資に特化した物流事業を展開するピーピングホールディングス(9145・15日)、バルブ製造販売のオーケーエム(6229・17日)、給排水器具のSANEI(6230・25日)といった3銘柄の取引が予定されている。東証1部銘柄では再上場のローランド(7944・16日)とベビーシッター派遣事業などを展開するポピンスホールディングス(7358・21日)が取引開始予定。ここまでの全体相場の需給は良好だが、16日は3銘柄、17日は5銘柄と相次ぐ上場で需給が悪化することも考えられる。とりわけ売出株が1000万株を超えるローランドのほか1505万株の売出を予定しているブレイド(4165・17日)、1715万株を売り出すロボアドバイザーのウェルスナビ(7342・22日)などが順調に消化できるか要注目。株高局面で迎える令和2年のIPOもラストラン。皆様とともにその動向に関心を寄せておくことにしたい。(東京IPOコラムニスト 松尾範久)